

Ancylopus pictus asiaticus Strohecker, 1972

日本産ヒゲブトチビシテムシ類要説 (VII)

保科英人

〒 910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部

要説連載の前々回(保科, 2017a)から日本産ヒゲブトチビシテムシ亜科 *Colon* 属最大の亜属である *Myloechus* 亜属の解説に入った。保科(2017a)で述べたように日本産 *Myloechus* 亜属は5種群に分けられる。そして、その5種群のうち、*Colon hachisukai* 種群と *Colon tametomoi* 種群の解説は前々回と前回で既に終えた(保科, 2017a; 2017b)。本稿(VII)では、4番目の種群である *Colon itoi* 種群の解説(前半)を行う。

Colon itoi 種群

保科(2016)で「*Colon itoi* 種群は3種である」と紹介した。しかし、その後新たに1種が奄美大島から追加されたので(Hoshina & Nishikawa, 2016)、現在同種群は4種ということになる。新しい同種群の種リストは以下の通り。

トゲヒゲブトチビシテムシ *Colon (Myloechus) itoi* Hisamatsu, 1985

チョウセンヒゲブトチビシテムシ *Colon (Myloechus) shini* Park & Hoshina, 2005

セアカヒゲブトチビシテムシ *Colon (Myloechus) rubellum* Hoshina & Fukuzawa, 2010

アマミセアカヒゲブトチビシ

テムシ *Colon (Myloechus) pseudorubellum* Hoshina & Nishikawa, 2016

Colon itoi 種群の形態的特徴は以下の通り。なお、同種群4種のうちアマミセアカヒゲブトチビシテムシは雄しか得られていないので、この種については性的二型に関する記述は一切該当しないことに注意されたい。

同種群の体長は2 mm 弱から3 mm 台半ばでヒゲブトチビシテムシとしては通常の大きさ。トゲ

ヒゲブトチビシテムシとチョウセンヒゲブトチビシテムシの背面の色は褐色~黒の単一色に近く、これまた他のヒゲブトチビシテムシと同様。しかし、残り2種については和名が示すように背中の一部が赤褐色の斑紋を持つ二色タイプとなる。体型(図1, 2, 11)には取り立てて特徴はない。触角も先端4節が球捍部を構成するおなじみの形態的特徴を示す(図3)。前胸背板の後縁はまっすぐかやや後方に膨らみ(図12)、性的二型は見られない。前脛節外縁の細い刺は前回(保科, 2017b)の *Colon tametomoi* 種群ほどではないが(さやばね No. 26 の図5, 13, 14, 23, 24 参照)、*Myloechus* 亜属他の3種群と比較すると高密度(図5, 13, 14)。前附節には弱い性的



図1. アマミセアカヒゲブトチビシテムシ *Colon (Myloechus) pseudorubellum* Hoshina & Nishikawa (愛媛大学ミュージアム所蔵)。

二型が見られるが、前脛節と後脛節は雌雄でほぼ同じ形態をしている(図13-16)。後脛節は雌雄とも細長く、強い性的二型が生じる(図6, 15, 16)。

Colon itoi 種群を特徴づける形態は三つある。一つ目は上述の細めの後脛節である(図6, 15, 16)。もっとも、細目か太目かと言うのは相対的なものであって、それなりの個体数のヒゲトチビシテムシを観察していなければ判断しがたい。二つ目は雌雄とも後脛節がまっすぐであること(図6, 15, 16)。これは *Colon itoi* 種群だけの特徴ではないが、連載の次々回に予定している雄後脛節が内側に湾曲する *Colon japonicum* 種群とは明らかに違いがある。

三つ目は雄交尾器の側片が中央片に比べて相対的に小さく、側方から見て単純な直角三角形ないしは中央部で垂直に近い角度で折れ曲がった細三角形となることである。さらに、側片は背中側だけでなく腹側も高密度の毛を有する(図10及び20の矢印)(Hoshina, 2009)。雄交尾器の側片でもって他の種群と確実に分けることができる(はず)。

なお、琉球列島固有種のセアカヒゲトチビシテムシとアマミセアカヒゲトチビシテムシの背中に斑紋があると言うのは、ヒゲトチビシテムシ亜科の中でも世界的に見てかなり珍しい特徴である。例えば、北アメリカ大陸のヒゲトチビシテムシ亜科 *Colon* 属をまとめた大著である Peck & Stephan (1996) では22新種が記載されているが、体色に関する記述がない。*Colon* 属の体色は黒褐色か褐色に決まり切っており、種の特徴に非ず、と著者らが判断したからであろう。

Colon itoi 種群の種への検索表

- 1) 前胸背板ないしは上翅は黒褐色部分と赤褐色部分に分かれ、明瞭に二色に分かれる(図2, 11, 12)。分布地：琉球列島..... 2
-) 前胸背板ないしは上翅は褐色～黒褐色でほぼ単一色。分布地：日本本土と朝鮮半島..... 次回連載(VIII)
- 2) 雄交尾器側片は側方から見て太い短三角形(図10)。分布地：奄美大島。..... アマミセアカヒゲトチビシテムシ *Colon (Myloechus) pseudorubellum*
-) 雄交尾器側片は側方から見て細く、中央付近で折れ曲がる(図20)。分布地：沖縄本島。..... セアカヒゲトチビシテムシ *Colon (Myloechus) rubellum*

アマミセアカヒゲトチビシテムシ

Colon (Myloechus) pseudorubellum Hoshina & Nishikawa, 2016

(図1-10)

体長は1.9 mmで、頭部は黒褐色、前胸背板は濃褐色、上翅は基本濃褐色だが、基部2/5が赤褐色となる(図1, 2)。前胸背板に microreticulation はなく表面は滑らか。毛の生え際の点刻(setal socket punctures)含む前胸背板のほぼ全ての点刻は大きく、それぞれ繋がらずに独立している(図4)。前脛節は基部から先端に向かって緩やかに広がり、外縁の細かい刺は高密度(図5)。前附節は横に広がる(図5)。後脛節は細長く、後縁に短い角状突起を持つ(図6)。後脛節は内側に曲がらず直線状(図6)。後胸腹板中央五角形部分の毛の生え際の点刻(setal socket punctures)と通常の点刻は小さく程々の密度で、中央部分がやや凹む(図7)。雄交尾器は(図8-10)の通り。種群の特徴のごとく側片は中央片と比して相対的に小さく、背中・腹側両方に高密度に毛がある(図10)。また、側片は側方から見て太い短三角形である(図10)。

分布地：奄美大島。

雑記。現在のところ本種は雄1頭しか採れていない(Hoshina & Nishikawa, 2016)。しかもその個体の標本状態はやや未熟気味であった。現在の知見に限定すれば、一見前胸背板が明瞭に二色か否か、また雄後脛節の角状突起の大きさと本種は次種と区別できるように思える(図6, 15)。しかし、保科(2016)で述べたように、*Colon* 属は雄後脚の形質の種内変異が非常に大きい。よって、本種が1頭しか採れていない状況では、雄後脚の形質でもって本種と次種を分けるのは危険と考え、上記の検索表にはあえて雄後脚の形質差を記さなかった。今のところ両種の確実な区別点と言えるのは分布地と雄交尾器の側片の形状だけである。

セアカヒゲトチビシテムシ

Colon (Myloechus) rubellum Hoshina & Fukuzawa, 2010

(図11-20)

体長は2.1-2.6 mmで、頭部は黒色、前胸背板は周縁が黒褐色で中央部が赤褐色の二色となる。ただし、赤褐色部分の大きさは個体差がある(図11, 12)。上翅は基本黒褐色だが、基部約半分が赤褐色の斑紋状となる(図11)。前胸背板に microreticulation はなく表面は滑らか。毛の生

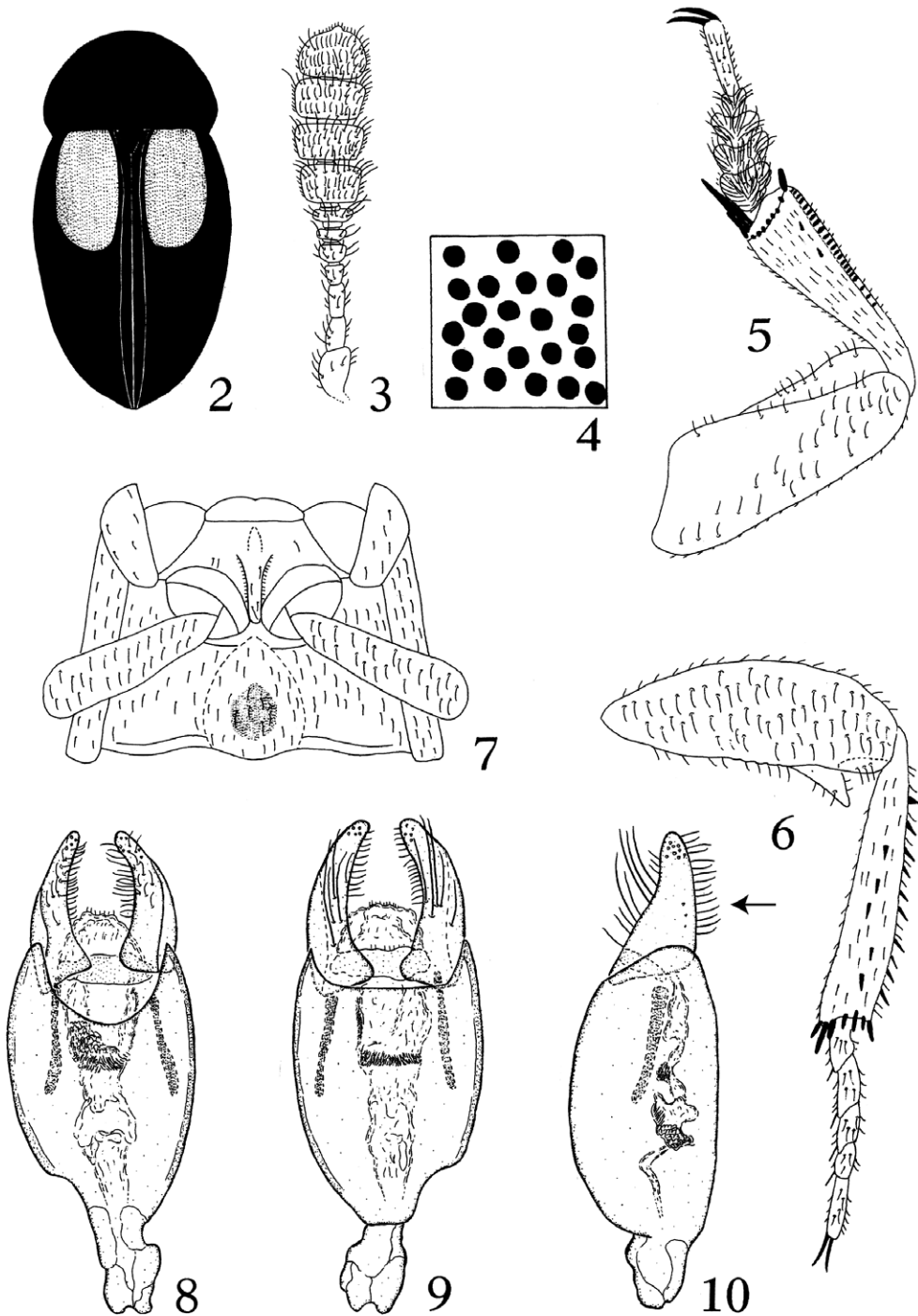


図 2-10. アマミセアカヒゲトチビシテムシ *Colon (Myloechus) pseudorubellum* Hoshina & Nishikawa. 2, 全形; 3, 触角; 4, 前胸背板の点刻; 5, 前脚; 6, 後脚; 7, 中胸および後胸 (腹側); 8-10, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図は全て雄形質で Hoshina & Nishikawa (2016) より引用.

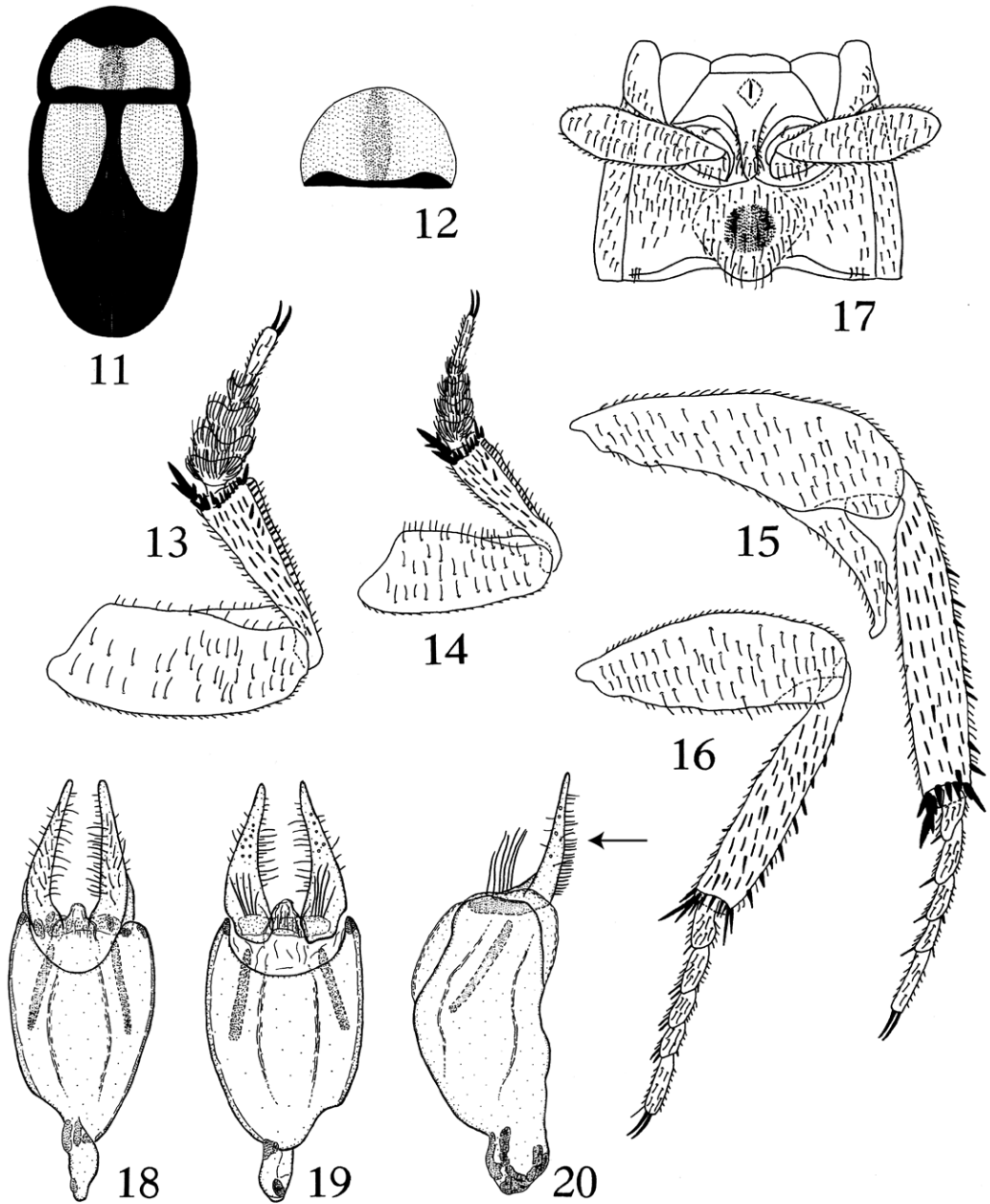


図 11-20. アマミヒゲトチビシテムシ *Colon (Myloechus) rubellum* Hoshina & Fukuzawa, 2010. 11, 全形; 12, 前胸背板; 13, 雄前脚; 14, 雌前脚; 15, 雄後脚; 16, 雌後脚; 17, 中胸および後胸 (腹側); 18-20, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 全て Hoshina & Fukuzawa (2010) より引用.

え際の点刻 (setal socket punctures) 含む前胸背板のほぼ全ての点刻は大きく, それぞれ繋がらずに独立している. 前脛節は雌雄とも基部から先端に向かって緩やかに広がり, 外縁の細い刺は高密度 (図 13, 14). 前脚節は雌雄とも横に広がるが, 雄の

方がより顕著となる (図 13, 14). 後腿節は雌雄とも細長い (図 15, 16). 雄後腿節後縁に長い角状突起を持つが (図 15), 雌にはない (図 16). 後脛節は雌雄とも内側に曲がらず直線状 (図 15, 16). 後胸腹板中央五角形部分の毛の生え際の点刻 (setal

socket punctures) と通常の点刻は小さく程々の密度で、中央部分がやや凹む (図 17)。雄交尾器は (図 18–20) の通り。種群の特徴のごとく側片は中央片と比して相対的に小さく、背中・腹側両方に高密度に毛がある (図 20)。また、側片は側方から見て細い三角形で、中央付近で顕著に折れ曲がる (図 20)。

分布地：沖縄本島。

雑記。1 頭ぼっきりしか採れていない前種ほどでないとは言え、セアカヒゲトチビシデムシもまた計 5 頭しか記録がない (Hoshina & Fukuzawa, 2010)。今後追加個体が捕獲されれば、上翅の斑紋や雄後脚の角状突起等に種内変異が確認される可能性がある。

追記

前回 (保科, 2017b) で「*Colon tametomoi* 種群は日本産 2 種と台湾産 1 種の計 3 種で構成される」と述べた。平成 29 年筆者は同じ種群の中国大陸産 1 種を記載したので (Hoshina, 2017), *Colon tametomoi* 種群は 4 種となった。日本産種の解説である本連載とは直接関係はない事項だが、一応紹介させていただいた。

引用文献

- Hoshina, H., 2009. A taxonomic revision of the subfamily Coloninae (Coleoptera: Leiodidae) from Japan and Taiwan. *Tijdschrift voor Entomologie*, 152: 237–286.
- Hoshina, H., 2017. Discovery of *Colon tametomoi* species group (Coleoptera, Leiodidae, Coloninae) from Mainland China, with description of a new species. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7: 389–393.
- Hoshina, H. & T. Fukuzawa, 2010. A contribution to the knowledge of the subfamily Coloninae (Coleoptera, Leiodidae) from Japan. *Japanese Journal of the systematic Entomology*, 16: 5–12.
- Hoshina, H. & M. Nishikawa, 2016. An additional new species to the genus *Colon* (Coleoptera: Leiodidae: Coloninae) from the Ryukyus, Japan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 22: 283–286.
- 保科英人, 2016. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説 (II). さやばね, ニューシリーズ, (22): 1–7.
- 保科英人, 2017a. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説 (V). さやばね, ニューシリーズ, (25): 1–6.
- 保科英人, 2017b. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説 (VI). さやばね, ニューシリーズ, (26): 1–8.
- Peck, S. B. & K. Stephan, 1996. A revision of the genus *Colon* Herbst (Coleoptera; Leiodidae; Coloninae) of North America. *The Canadian Entomologist*, 128: 667–741.

(2018年2月22日受領, 2018年3月2日受理)

【短報】チンメルマンセスジゲンゴロウの奄美大島からの記録

筆者は、奄美大島から初記録となるチンメルマンセスジゲンゴロウ *Copelatus zimmermanni* Gschwendtner を採集しているので、ここに報告する。本種は南西諸島からは種子島、トカラ中之島、口之島 (Hosoya & Tanahashi, 2017)、沖永良部島、久米島 (森・北山, 2002)、南大東島 (上手, 2003) から記録されている。

1ex. (図 1), 鹿児島県大島郡瀬戸内町蘇刈, 29. III. 2017; 1ex., 同地, 22. VIII. 2017.

海岸付近の水生植物の豊富な池より得られた。

末筆ではあるが、本種に関する情報をご教示して下さり、報告を勧めていただいた森正人氏、本文のご



図1. 奄美大島産チンメルマンセスジゲンゴロウ。

校閲をいただいた上手雄貴博士に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.
- Hosoya, T. & M. Tanahashi, 2017. New record of dytiscid beetle (Coleoptera, Dytiscidae) from Kuchino-shima Island in the Tokara Islands, the Ryukyu Archipelago, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7(1): 15–16.
- 上手雄貴, 2003. 南大東島初記録のゲンゴロウ類. 甲虫ニュース, (143): 12.

(森井隆文 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学応用生物科学部)